第 11 回糸島市総合計画審議会

日時：令和 2 年 10 月 28 日（水）

午前 10 時 00 分～

場所：1 号会議室

（出席委員）

古川委員、藤原委員、吉川委員、藤委員、加藤委員、柚木委員、高野委員、
坂井委員、三谷委員、小川委員、辰巳委員、草場委員、中尾委員、佐藤委員、
那須委員、清原委員、山崎委員、内野委員、豊田委員、寺崎委員

（欠席委員）

木下委員、小金丸委員

1. 開 会

事務局：

定刻になりましたので、第 11 回糸島市総合計画審議会を開催します。本日が最後の審議会となりますので、月形市長よりごあいさつさせていただきます。

市長：

今日が最後の審議会と伺いまして、ぜひお礼の言葉を述べさせていただきたいと思います。

高野会長をはじめ、総合計画審議会の委員の皆様には、大変お忙しい中、またコロナ禍の中、約 1 年半の長期間にわたるご審議をいただきまして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

担当からも、各分科会をはじめ全 11 回に及ぶ審議会が開催される中で、皆様の専門的見地、現場からの貴重なご意見を頂きながら、中身の濃い調査や審議をしていただいたと伺っています。「まちづくり市民委員会」、「高校生未来会議“いとしま”」、「中学生“いとしま”未来への提言」などを通して、市民の声をしっかりと聞きながら総合計画に反映したいという思いで、準備をしてみました。それを受けて、ここにいらっしゃる皆様方が、それぞれの見識、お立場でご審議をいただいたと思います。これからの 10 年間の糸島の姿を形作っていただいた。そして、市民の目標とできる総合計画ができたのではないかと思います。今日が最終決定ですので、これがさらに素晴らしいものになればと思っています。

今後につきましては、頂いた答申を真摯に受け止めて最大限尊重させていただき、庁内で最終決定をして、12 月定例議会に諮る予定です。審議会可決後には、この総合計画が画餅に帰すことのないように、スピード感を持って実行に移したいと思っています。

これまで長い間にわたって貴重な時間を割いていただいご審議いただいた高野会長をはじめ委員各位に心から御礼申し上げますとともに、将来像である「人とまちの魅力が輝く 豊かさ実感都市 いとしま」の実現に向けて、皆様方のお力添えを賜りますよう、あらためてお願いいたします。お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局：

市長は、公務の都合により退席させていただきます。

(市長退席)

事務局：

それでは審議に入ります。審議会規則第6条第1項の規定により、高野会長、ごあいさつの上、議長として進行をお願いします。

会長：

市長の言葉にもありましたように、この審議会は、11回の回数を重ねて、今回、総合計画が形になりました。昨年、基本構想を考えると、これからの10年間、振り返った時によく考えて作ったのだということを話しました。今年度に対してもそう思います。現在、コロナの問題も含めて、私たちの想像力は随分限られているのだと、変化が起こるときは本当に早いのだということをあらためて突き付けられたように思います。

ですが、そういう時期だからこそ、どんな姿を目指していくのかをしっかりとっておかなければいけない。それが「人とまちの魅力が輝く 豊かさ実感都市 いとしま」だとするならば、それをワンランク上のまちづくりに仕上げていくこと、どういう形でこれからの10年間経過できるのかが問われていると思います。それには、この審議会の委員の皆様の1人1人がそれぞれの立場でこの計画を活かしていき、伝えていき、ワンランク上のまちとはどんなものをそれぞれの立場で示して、考えて、広げていかなければ、行政だけではなし得ないのではないかと思います。最後の審議会になります。残念ながら3月の交流会はできませんでしたので、同窓会ができればいいと思いながら考えております。今日もご意見を頂きながら進めていければと思います。よろしく願いいたします。

まず、出欠の報告を事務局からお願いします。

事務局：

本日、欠席のご連絡が入っているのは、木下委員、小金丸委員の2名です。吉川委員は、遅れて来られると思います。現時点で、出席者は19名で、委員総数22名の半数以上であり、本審議会の開催要件を満たしていることを報告いたします。

2. パブリックコメントの対応

(事務局より資料①・資料②に基づき説明)

会長：

頂いたパブリックコメントに対する対応についてご説明いただきましたが、ご質問、ご意見等はありませんか。

中尾委員：

バスの路線に対しては、91 ページの「主な取組」に回答が盛り込まれていると認識しています。もう 1 点、パブリックコメントの回答の 4 件という件数について事務局がどのように受け止めているかと、4 件ということは、総合計画の策定の意義がまだ市民の間に浸透していないのではないかと、4 件ということ、実行されないことにつながります。住民の 1 人 1 人の計画だという認識で、今後、運用を進めていくべきだと思いますので、パブリックコメントの総括も含めてお考えをお聞かせいただきたいと思います。

事務局：

1 点目の路線の見直しの件ですが、この取組は市のバスのことであり、昭和バスの運行については盛り込まれていないので、このような回答にさせていただきました。

2 点目のパブリックコメントの件数の総括に関しては、基本構想の時のほうが件数的には多かったと認識はしています。4 件ですが、子育ての分野や議論が集中したようなところについての質問が出なかったところは、残念だという思いを持っています。

今後は、総合計画をしっかりと市民の方に理解していただけるように、広報活動を充実させて周知をして、市民の皆さんとともにこの計画を進めていくことができると考えています。

会長：

4 件というのは少ない印象ですが、実際、市民の方とさまざまな活動をされている中で出てくる反応があると思います。きちんと手続きに沿って進めていただいているということで、いろいろな要因が重なって少なかったということしか考えられないと、今、伺いながら思いました。

他にありませんか。よろしければ、パブリックコメントへの対応はお認めいただいたということで、先に進みます。

3. 答申案について

(事務局より、資料②・当日配布資料「追加修正箇所一覧」・資料③に基づき説明)

会長：

文言等の調整については、よろしいですか。その確認後に、答申案について考えたいと思います。

三谷委員：

120 ページの 7 月 20 日の「まちづくり市民委員会」が「中止」と書いてありますが、言葉としては「延期」が正しいのではないかと思います。

事務局：

8 月に延期になっていますので、「延期」と変えさせていただきます。

清原委員：

120 ページ、121 ページの数字の全角と半角が混ざっているので、半角に統一したほうが見やすいと思います。

事務局：

対応させていただきます。

豊田委員：

指標の根拠について、意見を申し上げます。

例えば 138 ページの一番上、「生活困窮者自立支援相談の認知度」の「現状」が 9.7%で、「認知度が低いと評価され、5年で2倍にすることを旨とする」とありますが、この 9.7%という値がなぜ低いと評価され、なぜそれを2倍とすべきかの根拠を書くべきだと思います。単に2倍にしますと書くだけでは何の根拠にもなっていません。なぜその指標を選び、なぜその目標値を設定したのかまで踏み込んでいただいたほうが、納得性の確保や事後検証のしやすさにつながるのではないかと思います。

事務局：

総合計画の指標については、第1次長期総合計画の時から、総合計画の指標は不十分ではないかというご指摘を行革推進委員からかなり頂きましたので、それを踏まえて、見直しを行っています。

糸島市が行政評価の取組を本格的に行ったのが平成28年度からで、それに合わせて、職員には行政評価、指標の研修もしているのですが、今言われるように、まだ指標に甘いところがあると思っています。

例えば「自立支援相談の認知度」については、言われるように「なぜ20%なのか」という問いかけはしていますが、現状の数値から見て、本当に過半数以上の市民の方に認知してもらう50%まで行くのかという問題もあります。今後、総合計画審議会で評価を頂き、指標についてもご指摘を頂きながらノウハウを積み上げて、次の計画にきちんと反映させていきたいと思っています。今回の総合計画は、前回より指標は充実していると思いますが、担当者としても不十分という認識はしています。

豊田委員：

付帯意見(3)の点検の仕組みを設けるとするのは、指標に対する進捗率、指標の見直し、指標の根拠の見直しも含まれているのですか。

事務局：

付帯意見(3)の仕組みの構築について、119ページにありますが、この総合計画審議会の中で、今の指標に基づいて点検していただくというところでの付帯意見になっています。総合計画審議会の次の点検で、この指標ではチェックができにくいというご意見に対しては、後期の基本計画の指標の設定をするときの参考にしていければと考えています。

豊田委員：

今後5年間は今回決定した指標を使って、5年後に指標自体の見直しするという回答ですか。

事務局：

基本計画は5年間の計画で、5年後の目標値として指標を設定していますので、基本的には、これに基づいて評価をし、進捗を管理していくということになります。ただし、例えば、1年目、2年目に5年後の目標を達成した場合は、総合計画自体を見直すことはしませんが、新たに高い目標に設定しなおして、そこに向かって事業を進めていくということで、その時点でそういった点検をしていただいているのではないかと思います。

指標の設定で、現状の数値を伸ばすところが理論的に分析された数字になるのがベストだと思いますが、ここまで伸ばすという理論的な設定が非常に難しいものが多いのです。例えば、現状が30%で、10年間で100%まで持っていくということで、5年間で60%というロジックは組み立てられますが、理想の100%に持っていきたいけれども現状は難しいという中での設定にしかない指標もかなりあると思います。

総合計画審議会で議論をする中で、例えば生活困窮者の相談の認知度がどこまで上がると市民の方が相談しやすくなるのか、真の自立に向けて改善に向かっているのかということも、これを継続することによって、どこまで認知を高めればいいのかも見えてくるのではないかと思いますので、その辺は、今後の進み具合を見て、指標の精度をさらに上げていかなければいけないと思います。

豊田委員：

分かりました。私が言いたかったのは、先ほどおっしゃっていた指標設定自体に関する課題があるとしても、それでもあえてその指標を選んだ理由を明確にするということです。感覚値で設定したのか、それともロジカルに設定したのかが明確であれば、それに応じて同指標に対する今後の対応策も変わってきます。また、今回設定した値が、ロジカルに考えられていない部分もあるのであれば、1年ごとに指標の目標値を今までの進捗状況の下で見直すなり、指標自体を入れ替えるなりすべきと考えます。指標や目標値を5年間固定するのは長すぎるのではないかと思います。

事務局：

指標の設定については、市議会でも意見を頂きましたし、内部でもかなり議論をしましたが、現時点でこの指標がベターではないかということで設定しました。ただし、今言われるとおり、進捗を図っていく中で、こういう指標の設定のほうがいいということがあれば、総合計画自体の見直しはしませんが、新たに別の指標を設定してその数値を追いかけていくということは、この審議会の中で今後、評価・検証をしていただこうと思いますので、ご意見を頂きながら新たに進化させるということは可能だと思います。

藤原委員：

指標の設定についてですが、計画を実施する上で、最初に設定した指標を1年ごとにくろこ

ろ変えると、5年間の計画の進捗状況が継続して計れないのではないかと思います。もう1点、認知度が20%という目標値について、多分、業務を行っている方々は、経験に基づく別のデータを持っておられて、それに基づいて決定されたのではないかと思います。例えば、3年前は5%、2年前は7%だった、現状が9.7%だから5年後は15%くらいかもしれないけれども、少し頑張って20%を目指そうというように決定されたのかもしれない。確かに、科学的データに基づいて目標値を決めたほうがいいかもしれませんが、無理な場合は、経験値に基づいた目標値の決定という方法もあるのではないかと思います。いずれにしても、指標はきちんとしたものを設定することは大変重要であると思います。

会長：

ありがとうございました。指標については、今頂いたご意見を踏まえて、必要な検討をこの審議会の中で行いつつ、適切な指標を考えていくことが確認されたと思っています。

三谷委員：

指標に関して、総合計画に載せる文面としては、これくらいでいいと思います。市のほうで、これはいい加減に決めた指標だというものを今の段階できちんと整理をして、こういう悩みがあったけれどその中でこう決めたという部分を内部資料として記録して残しておけば、今後の審議会での議論につながると思います。豊田委員が言われたのは、そういう本質のところをきちんと整理しておいてくださいという意味だと思います。

総合計画は、細かいところまでは誰も読まないと思いますのでこれくらいにしておいて、市役所の方々が、それを継続して次の人に伝えることが大事だし、我々委員も替わるので、あの時にどういう議論が行われたかということ、役所の課の中でそれぞれ議論して悩んで作った記録を残しておけばいいと思います。

事務局：

今、言われたとおり、内部で議論をした経過については内部資料として持っていますので、きちんと引き継ぎができるようにさせていただきます。

会長：

ぜひ、そういう形で継続していただきたいと思います。

坂井委員：

43ページの将来都市構造図に都市的誘導ゾーンという、市街地の周りの人口が増えるという都市構想において、糸島市は、真ん中のJRを中心に市街地が開けていく様子が分かります。ご覧のように、田んぼが市街地に入り組んでいる所は、将来人口が増えていくときの受け皿にしていくというのが、43ページのハートの部分です。田んぼは、なるべく跡継ぎを育てようというよう、ブランド、会社で一次産業をきちんとしていこうという話も同時にしながら、大事にしていかなければいけません。そういったせめぎ合いの場所が、実は市街地のコンパクトな大変いい所に入り組んでいるという風景です。大事な一次産業の場所ですので、こう

いった所は、都市計画審議会ですっかり検討していく材料になっています。

既存の市街地の建て替えを狙って集約型、高層化していくというのは、民間ですっかりやっ
ていただくように、行政から指導していただきたいということを申し上げたい。皆様ともこ
の話を共有したいと思っています。

あと、42 ページに第7章「土地利用の基本方針と将来都市構造図」とありますが、「将来都
市構造」でいいと思います。

あと、6 ページの(9)、(10)で西暦を使っていますが、全体的に和暦を使っているのと和
暦にして、必要であれば括弧使いで西暦を入れるように修正していただければと思います。

事務局：

将来都市構造図は、各法律を順守しながら慎重に進めていかなければいけないと思っていま
す。

6 ページの西暦と和暦の使い分けですが、SDGs は国際機関で決まっているものなので西
暦のほうが表現としてなじむと思いましたが、ご審議いただいて統一したほうがよければ、
修正します。

会長：

ここだけ西暦が出てくると見逃したのかと思われるかもしれませんので、併記の形もあり得
ると思いますが、いかがですか。

事務局：

併記とさせていただきます。

辰巳委員：

指標についてですが、5年間、各課でこの指標をにらみながら行政を進めていかれると思
いますが、コロナで指標が全く意味をなさないものが出てくるのが考えられます。今のウイ
ズコロナの段階では、ポストコロナは読めないで決めることはできないと思いますが、あ
る程度見えた段階で、イレギュラーですが1度見直す必要があるかもしれませんので、しゃ
くし定規に5年間ではなくて、指標の再検討の機会も持っていただければと思います。

事務局：

おっしゃるとおり世界的な大きな変化なので、見直す必要が出た場合は、見直さなければい
けないと思っています。

会長：

総合計画全体を通しての修正点の確認に関しては以上でよろしいでしょうか。ありがとうご
ざいます。それでは、付帯意見についてご意見を頂きたいと思います。

三谷委員：

ポストコロナのこともあるので、付帯意見(3)に「社会の状況を鑑み、柔軟性をもって取

り組む」という言葉を加えたほうが良いと思います。「仕組みを構築し、柔軟性をもって計画もやり直し」という感じで考えていただければと思います。

会長：

変化をしていく社会に生きざるを得ないので、変化に対応できるようにしておきたいということかと思います。文言については、事務局と会長・副会長で検討するということでよろしいですか。

事務局：

付帯意見につきましては、事務局案として作成させていただいて、最終的には会長・副会長に一任して、修正・追記をさせていただきたいと思います。

会長：

ぜひその形で検討したいと思います。

答申案についてご確認いただいたということで、先に進みます。

4. 「総合計画（案）」デザイン版の説明について （事務局より、資料④に基づき説明）

会長：

お気付きの点があればお願いします。

佐藤委員：

黄色からは開きにくくて、左のページを先に読んでしまいます。内容では、8ページ、1、2、3、4の色が変わっていませんが、30ページは1、2、3、4に色を付けているので、8ページも色を付けて誘導したほうが分かりやすく見られると思います。

もう1点、青いほうの4ページの写真は、名前が見えている名札や、Wi-Fiの番号などをぼかしたほうが良いと思います。

会長：

デザイン版が仕上がったものの校閲は、市に一任するというので私たちが見るということではないので、ご意見を頂いてありがたく思います。

事前の誘導は、見やすい形を考えていただければと思います。

豊田委員：

前回の説明では、メインカラーを青にして、アクセントカラーを黄色にするという考え方でしたが、この色の考えたとしては、メインカラーが黄色と認識しています。基本構想と基本計画のメインカラーを分けてしまったほうが、テーマ別の認識がしやすいのではないかと思います。

事務局：

黄色は糸島のシンボルカラーですので、黄色をメインカラー、ブルーについては、糸島の海や空その周辺のイメージを象徴する形でブルーとして、基本的には黄色とブルーを表紙に使わせていただきたいという説明をさせていただいていました。

紙の一番端に、基本構想分には黄色の筋、基本計画には青の筋が入っていますが、カラーコピーで作っているため一番端には来ていません。実際、印刷・製本する際は、一番端にこの色が表示される予定で、基本構想と基本計画が分かりやすくなる工夫をしています。

豊田委員：

本をこちらから見るときに、真ん中で黄色の部分と青の部分に分かれているということですか。

事務局：

少しは分かるかなというところです。

事務局：

小口の面に色がでると分かりやすいと思いますが、印刷の関係で小口に色を付けるのは難しいと印刷会社から聞いています。紙の端でもそれなりに分かるのではないかと思います。

豊田委員：

誤解していました。メインカラーとして基本構想は黄色、基本計画は青で統一すると理解し直しました。

藤原委員：

カラフルでわくわくしながら見ました。表紙に「Itoshima City」と書いてありますが、その文字の大きさに比べて第2次糸島市長期総合計画という文字が小さすぎると思います。これは第2次糸島市長期総合計画なので、フォントを大きくして、もっと主張してもいいと思います。また、同様に、黄色いほうの表紙は基本構想で青色のほうの表紙は基本計画だということを、フォントを大きくして主張したほうが、分かりやすいと思います。

事務局：

コンサルとも相談をして、そのようにさせていただきたいと思います。

坂井委員：

黄色い表紙の「Consept」は、スペルが違ってきます。

事務局：

ありがとうございます。

会長：

市民の皆さんに配るといふことで、デザインを考えていただくようお願いします。

三谷委員：

180 ページもの冊子を市民全員に配るのですか。

事務局：

カラー版は、12月の議会に提出させていただく予定ですので議員と、関係者に配らせていただきます。それ以外は販売と考えています。

事務局：

今回、180 ページの印刷版と、もう少しコンパクトで市民の方が手に取って読みやすい概要版も併せて作ります。

会長：

よろしいですか。よろしければ、頂いたご意見をきちんと協議していただいて進めていただくようお願いします。総合計画（案）のデザインに対しては可決したと認識させていただきます。今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

5. 今後のスケジュールについて

（事務局より説明）

11月5日（木）	総合計画審議会による総合計画の答申
12月	総合計画案の議会上程・決定（予定）
令和3年4月1日	総合計画スタート

会長：

ご質問はありませんか。ありがとうございます。

それでは、本日、審議会でご意見を頂きました。これが最後の審議会ですので、総合計画案、答申、付帯意見の案について、必要な修正が出た場合は、会長一任ということでご了解いただければと思いますが、よろしいですか。

（委員より「はい」の声あり）

会長：

ありがとうございます。それでは、本日、審議会ですまざまなご意見を頂き、円滑に進めることができました。これで11回目の審議会を終えさせていただきます。一つの区切りになりますので、あらためて皆さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、閉会のご挨拶を、副会長から頂きたいと思っております。

6. 閉 会

副会長：

お疲れでした。昨年の6月25日に第1回の本計画審議会が始まりまして、今日で11回目、2年にまたがって審議をしていただきました。皆さんのおかげで、第2次糸島市長期総合計画が出来上がりました。12月議会で決定がなされて、「人とまちの魅力が輝く 豊かさ実感都市 いとしま」を目指す取組が始まります。11月5日に、会長と、市長に答申を持って行き、皆様方の思いを市長にお話し、答申にもありますように「参画」と「協働」を基本として取り組んでいただきたいと、もう一度市長に申し伝えたいと思います。

これをもちまして、第11回、最終回を閉会させていただきます。ありがとうございました。